修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

全修協

第16回通常総会開く

強力に施策の推進へ

全組織の活動を期待

財団法人・全国修学旅行研究協会の第十六回通常総会は三月四日の役員会に続いて五、六日の二日間、梅の香ただよい、彼岸桜のほころぶ熱海市で開催。会場の新熱海ホテルには定刻前から山本理事長はじめ役員、全国の各支部長、協力機関代表が続々と集まった。

地区ごとの会合はしばしば開かれているが、北海道から九州までの全員が一堂に会するのは年一回。それだけになつかしさがいっぱいなのだろうか、挨拶の声が館内にこだまする。

全修協が誕生して早くも来年は二十周年を迎えるが、今回の通常総会では新しい時代への躍進のステップに立った緊張と、今後の活動に対する同志の決意がみなぎり全修協の体制が確固不動のものとなったことを示した。議案審議でも意欲的な発言が多く、来年度の前進が大いに注目されよう。

第一日は五日午後一時から大会議場で開会。村山助雄氏（常務理事・福岡県支部長）が「来賓をはじめ役員、支部長、協力機関のかたがたのご出席のもとに第十六回通常総会を開くことになった。皆さまが各府県教育界のトップ・リーダーとして活躍されておられることにたいし、また、全修協設立の趣旨にのっとり各都道府県それぞれが最も近代的な方法で業務を執行されておられることに感謝したい。建設的なご意見を承わり有意義な総会についたしたい」と挨拶した。

議長に青山良道（理事・東京都支部長）和田直三（福井県支部長）両氏を選出、また、議事録署名人に田崎辰夫（長崎県支部長）木村愛一（静岡県支部長）両氏を任命した。

山本理事長は「来賓をはじめ皆さまとともに総会を開くことができてうれしい。全修協の運動を今後とも強力に推し進める決意である」と別項要旨の通り挨拶を述べた。来賓祝辞と祝電披露のあと白滝事務局長から一般報告が行なわれ、続いて新しく栃木県支部長になった梅沢茂氏に対し山本理事長が委嘱状が渡された。なお青山議長は「来賓のうち近畿日本ツーリストの久保常明社長が昨日役員会のあと挨拶のため来場された」と報告した。

第一号議案「四十九年度事業報告ならびに収支決算」第二号議案「五十年度事業計画ならびに財政計画」第三号議案「五十年度修学旅行の研究活動」第四号議案「五十年度教職員研修旅行」第五号議案「その他」の各件につき審議をかさねて可決した。午後四時からは北海道・東北、関東、北陸・東海、近畿、中・四国・九州の地区会議を開催し、決定した議案について具体的な検討を加え第一日を終了した。

第二日は午前八時三十分から全体会議が開かれ、地区会議の結果がそれぞれ報告された。最後に永井隈氏（常務理事・茨城県支部長）の閉会のことばがあり、菊池武貞氏（佐賀県支部長）の発声で全修協万歳を三唱して同九時三十分、総会の幕を閉じた。

【来賓】▽田畑常清氏（全国教職員互助団体協議会会長）▽赤尾公之氏（近畿日本鉄道株式会社鉄道総局 業務局長）▽稲葉洋文氏（関西汽船株式会社取締役営業部長）▽桑原守也氏（近畿日本ツーリスト株式会社常務取締役）▽樋尾幸雄氏（同国内旅行部長）

【祝電】▽原田憲氏（衆議院議員）▽槙枝元文氏（全国教職員福祉団体連絡協議会会長）▽寺田鍈氏（日本教育公務員弘済会会長▽日本生協連学協支所▽有村治峯氏（大島運輸株式会社社長）▽西田富士雄氏（大島運輸株式会社取締役・東京支店）▽中山正秋氏（関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会会長、東海三県中学校修学旅行委員会委員長）▽佐藤武男氏（関東地区中学校修学旅行委員会会長）▽北牧一雄氏（近畿二府四県中学校修学旅行委員会委員長）＝いずれも順不同＝

熱心に運動推進の審議をすすめる総会。（熱海で）

来年度

おもな事業計画

現在、わが国はきびしい転換期に直面しており、これを乗りきって日本民族の将来をひらくため、教育界に課せられた使命はきわめて大きい。協会は創立の原点にかえることによって進歩変革の時代に対応すべく、組織による集団の思考行動を推し進めることにより①修学旅行の現代教育におけるありかたの本質究明と教育条件の整備を行ない、とくに福祉国家における公教育の父兄負担の軽減をはかる②教職員の自己研修、修学旅行の引率教職員の指導力の向上を中心に事業を企画し、その執行組織の強化をもって新しい時代へと躍進を期する。

【修学旅行】

重点目標としては①ゆたかな教育性②安全快適③費用の軽減の三点をあげ、これをあらゆる角度から検討し実践にうつす。研究活動の展開としては▼修学旅行特別委員会を四月下旬までに設置する▼修学旅行特別委員会、各地区修学旅行委員会、研究協力校などの研究成果と各都道府県における基準概要、実態調査などの発表会を来年二月に開く▼そのほか研究協議会を六月から関東、東海、近畿の三地区で開くほか府県別の懇談会も催す。

安全確保についての運動としては事故発生を把握し、警察、保健所、交通機関、旅館などに対し協力を要請、安全対策の基準を設定する。また、費用の父母負担軽減の運動では▼国鉄運賃料金の低減を国会、関係官庁、国鉄へ陳情する。▼要保護・準要保護家庭とへき地学校児童生徒に対する補助金の増額など。

修学旅行委員会の育成拡大としては三地区修学旅行連絡協を中心に下部組織を強化する。関東、東海、近畿地区の各修学旅行委員会は独自の立場から研究活動をすすめる。

【研修旅行】

本年度の目標は教育的、経済的普遍的の三原則を基本とする本部の企画に基づいて実施。夏季研修旅行は海外をふくめ十二コース、さらに目下交渉中の中国教育視察も予定され多彩な計画となっている。募集人員は一万二千百十名で各都道府県支部と協力機関は総力をあげて人員確保へ拍車をかける。

歴史の転換期迎う

全修協理事長

山本種一氏

戦後三十年にわたって経済規模の拡大を基本的路線としてきた高度経済成長は、豊かな物質生活をもたらした反面、自然の破壊、環境の汚染、国民の生活レベルの格差などの社会的なひずみをもたらしました。

経済拡大を基盤とした文化が日本と日本人から大切な心の問題をも奪い取り、日本民族の誇りとする美質までも疎外するようになったのは、まことに悲しむべきことであります。

数年らい、国鉄によってディスカバー・ジャパンという宣伝が展開されましたが、事実と違った遺憾な状態を生じました。

われわれの真の日本再発見の目的は、わが国の伝統や生活そのものの中から「失われた日本の心」「日本民族の魂」を、そして明日の活力になる埋れた文化の泉を汲みとることによって日本人の人間としての思考や行動原理が生まれてくると信ずるものであります。

迎えた昭和五十年は戦後三十年間の路線を再検討し、新しい目標を模索する歴史の転換期といえましょう。この時にあたりわれわれは、先人の残したよき伝統と文化の尊重に心をいたし急激な近代化のために失われた精神面を重視し、教育の基本理念である人間性の回復を全修協運動の基調として、修学旅行の研究活動、教職員の文化厚生運動としての研修旅行の事業などの推進ならびに活動の展開を期したいと念ずるしだいです。

全修協の事業がきびしい社会情勢の中にあっても順調に進展し、今日の如く公益法人、教育集団としての確固たる地歩を築くことのできましたのは、ひとえに二十年に及ぶ長期にわたり終始一貫運動の推進と組織基盤確立のために心からご協力賜わった同志諸君の支えのおかげと厚くお礼を申しあげるしだいであります。（挨拶要旨）

風紋

「海」—その未来をテーマに、七月二十日から半年間、沖縄で国際海洋博が開かれる。内閣広報室の世論調査によると、海洋博の開催を知っている人が八二%、観覧を希望する人は三二%、また「実際に行ける」「行けそう」と答えた人は、六%であったという。（読売、二・二）▼この海洋博は、実際に見学できる数%の日本人だけのものでなく、見る見ないにかかわらず、日本人全体が「海」について考えを深める機会としたいものだと思う▼「はてしなくひろがる宇宙空間の一角に、白雲をまとって青く輝く地球は〝水惑星〟の異名が示唆するように、三分の二が海でおおわれている。そして海はすべての生命の発生のふるさとであり、わたし達人類をはぐくむ母である」と海洋博の基本テーマ設定の考え方がのべられているが、海とは何かの問に対する、味わい深いひとつの答えでもあると思う▼洪積世のころ、アジア大陸は地つづきであった。いまから約二万年ほど前に東の周辺に陥没がおこりそこではじめて日本列島という無人島ができあがったのだそうだ。その後長い長い時間、鳥やけものや植物の楽天地であったことだろう▼この無人島へアジア各地から漁労民たちが小舟にのってきたり漂着したりして、原日本人の生活がはじまり、人間の社会が形成され、やがて歴史時代を迎えたものである▼だから、原始日本は海風のそよぎとともに誕生し、歴史古代の日本もまた、海をこえてきた大陸文明によって形ができあがっのである。ところが、徳川氏の政権が確実となった慶長十七年（一六一二年）キリシタン禁教令とともに海をとざした時にはいった▼いま、資源の少ない小さな日本列島にとじこもっては、一億の人間は生存ができないのだ。海をひらいて世界の人々と手をつなぎ、この地球宇宙船の中で共存のみちを探すしかないのである▼山国のへき地には海を知らない生徒も多いだろう。このこども達に、海を知らせ、海を考えさせ、海人族の子孫にふさわしく、視界をひらくため校外教育の場を思いきりひろげたい。

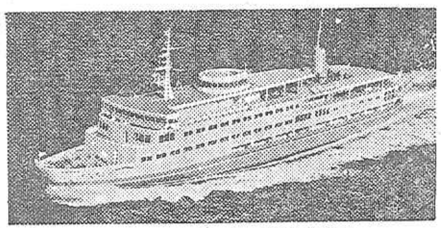
日本の旅　世界の旅

電算機がお手伝いする
ひまわり窓口

近畿日本ツーリスト

KANSAI LINE

思い出の修学旅行
印象的な、瀬戸内海の船旅



●阪神—別府航路（毎日4便）
●阪神—小豆島・高松航路（毎日4便）ほか
●神戸—日向（宮崎）フェリー（隔日1便）

関西汽船
■お問合せは
大阪市北区宗是町1（06）441—4100/東京都中央区八重洲1-9-9（03）281—2621
ほか関西汽船・関汽交通社各地営業所・各旅行あっ旋案内所へ

全国各地
小中高校
全90種
旅のしおり

■御校のコースにマッチした「しおり」が用意してあります。見本無料呈。
■北海道から九州まで，小学校から高校まで，あらゆる種別を用意。
■見学地図の裏に御校の「旅行要項」をお刷りしています。資料呈。
■修学旅行の資料ならなんでもおそろえします。ご照会ください。

修学旅行図書・資料出版
株式会社
教材研究所
〒601 京都市南区西九条鳥居口町5
（京都駅新幹線口の南西）
電話・代表075-681-1591，2，3，4
振替・京都2539

3年の食糧備蓄

新生中国視察記＜2＞

完戸一郎

この国の政策上の力点の順位は農、工、兵、学、商の順であるという。何しろ、七億五千万人ともいわれる人民に満足な食糧を与えることは、何といっても政治の第一順位であることが、しみじみ理解できる。工業すらこの農を支え推進するためのものという考え方である。このたび開幕した展覧会の意義もここにあるのである。即ち、日本の進んだ農機械の展示とその実演、さらに各種農産加工、栽培技術の研究発表などである。ただ、日本と中国の実情の違いがここではっきり目立つことを忘れてはならない。中国には広漠たる土地があり、日本の面積の二十六倍という、さらに人口は七億五千万人というのであるから、これらを合わせ、より増産する技術の導入ということが眼目である。従ってわが国のいかにして省力し、余剰人力を他産業にふり向けるかという観点とは大きな差があるのである。

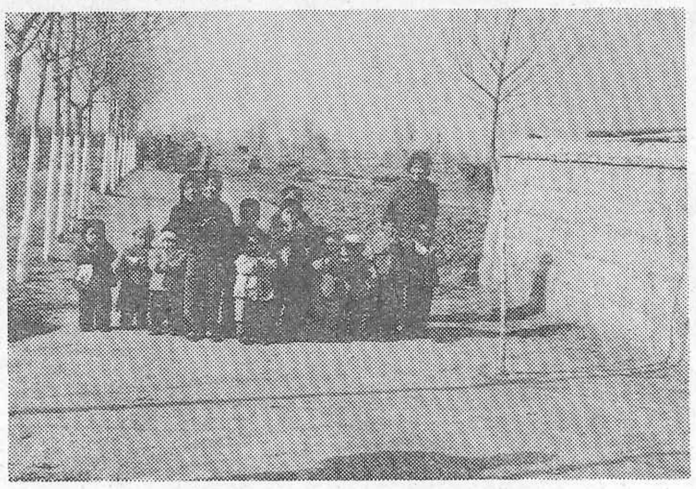
一例をあげれば、某会社の出品になる田植機は、一人の人も必要がなく、機械自らが田植えを完了してくれるのであるが、増産にはつながらないのである。また、大阪府の展示と栽培の研究成果の「水耕野菜」なども、畑地のほとんどない大阪のどまんなかでの栽培研究で、広大な畑地をもつ中国では興味のうすいものなのである。北京大学生の通訳の一人が、中国の辞書には「省力」という言葉はありませんと申していたことでも、日本の立場と中国の立場の基本的相違がわかるのである。

中国では年間に四千万トンの食糧を備蓄しているとのことであった。わが国総人口の必要食糧の四倍量である。この備蓄の三年間後に食べさせるのだから、ご飯そのものは、朝食のお粥は別として、昼も夜もおいしいものではなかった。わが国のようにおいしいお米などという要求は中国では全く見られないものである。

ここで北京大学生の通訳のことにふれたが、実に熱心に勉強することに驚く。中国の大学生は、中国学制の中学後期、日本の高等学校に当るところを卒業して、社会の実務に二年ないし三年間就業する。それからその職場の推せんを受けた者が受験できる仕組みで、大学を卒業した者は即ち国家の指導者という目的意識を明確にもっている。もちろん、全部国費で学ぶのである。

この制度もわが国の現在とは余りにも相違しているが、彼等は二言目には「国家のために」という言葉を使用する。貯蓄もすべて国家のためである。大学を卒業して日本円で月俸六千円なのである。彼等にそれで生活できるかと問えば「多小あまります。あまったお金は国家のため、すべて貯金します」との返事である。そして毛主席の月俸は、この六倍の三万六千円であるという。もっとも物価も低いし、生活水準も低いとは申しながら、いかに希望を前途につないで耐乏生活に甘んじているかがわかる。このような意識は、いかなる土壌に培われ、今後どのように育っていくのであろうか。大きな関心事であった。（つづく）

＝全修協理事・山形県支部長・山形県議会議員＝



中国農村の子どもたち。（筆者うつす）

春の研修旅行満員

夏季コース　申込みを受付中

（財）全修協企画主催の本年度春季教職員研修旅行は三月二十六日から四月はじめにかけ、「隠岐島」「南九州」「南四国」「沖縄・石垣島」のほか特別研修として「古窯探訪」「難波・河内・飛鳥」「国東文化」「鎌倉文化」の八コースで実施、八百五十名の参加者はうららかな春光をあびて心ゆくまで研修の旅をつづける。春季研修旅行は予期したとおり参加希望が多く、申込み期限前にはすでに全団とも満員となった。

たまたま同期間に国鉄労組のストが予定されていたため全修協本部と実施担当会社では代替計画をたて輸送や宿泊に万全を期したため全員は支障なく旅行がつづけられる。

なお、夏季研修旅行もすでに全修協各支部や協力機関で申込みを受付中である。コース名は次の通り。（日程、会費などは各学校に配布したチラシをご参照のこと）▽北海道一周（A、B、知床、利尻）▽東北（一周、陸中）▽佐渡・磐梯▽志賀高原▽木曽・立山▽能登・越前▽南紀▽四国一周▽山陰▽九州一周▽尾瀬▽万葉歌碑▽沖縄海洋博▽海外2コース（日教組と共催）

以上のほか中国教育視察団も予定されている。（コースによっては募集しない都道府県があります）

未来への文化遺産

中尊寺修学旅行記

大塚悦子

ずいがん寺から一時間半あまりバスにゆられて、やっと平泉の駐車場についた。みんなつかれてフラフラしている。

平泉西行苑で昼食をとって、おみやげをバスの中において、歩いて中尊寺の月見坂を登った。ガイドさんの説明によると当時この坂で月見の宴がもよおされたところから「月見坂」といわれるそうだ。

道の両側には、樹令三百年から四百年に達する老杉が続き、九百年の歴史をほこる名高い寺、中尊寺参道にふさわしいふん囲気を出している。

みんなにおくれないように、いっしょうけんめい参道を登っていくと、手にとるような美しいながめの見える「中尊寺東望台」についた。みんなは、ほっとしたように眼下に広がる緑の田や、静かに流れる北上川、また、左に見える東稲山に見入った。当時、この眼下の田んぼは、大きな町であったそうだ。ときおり汽車が通るだけの静かな所に、にぎやかな町があったとは信じられないほどである。

少し歩くと、古びた鐘楼の前で止まった。この鐘は、毎年除夜に全国放送される名鐘の一つとなっている。木でできたお堂の中に入っているので盗まれはしないかと心配になる。みんなは「かっこいいな」などといってながめている。

金色堂にはいると、黒漆を厚くぬり、その上に金箔を押し、内陣は三段を設け、だん上には十一体の仏像を安置し、だん下中央が清衡公、左が基衡公、右が秀衡公のご遺体と四代泰衡公の首級が納められている。四代泰衡公は、あわれにも兄におわれ、にげているうちに、けらいにうらぎられて、うち首にされたそうだ。当時の人は自分の兄弟でも弟を殺したりするものかと、意外に思った。

金色堂の中はうす暗く、外よりもすずしい。案内係が「ミイラはミイラれないよ」といってみんなを笑わせたが、私たちは残念に思った。長く保存するために、くさらないように気を配っているのだなあ、と改めて重要さを感じた。

中尊寺は、ほとんどが国宝に指定されている他に、未来に伝えたい当時の人が使っていた物や、建物、宝物などがたくさんある。これらは世の中がひらけていくための重要な資料である。それらを守り伝えていくのが私たちの役目ではなかろうか。いろいろと見たり聞いたりしたことを少しでも多くの人に語り伝えていきたいものだと思った。

またいつか中尊寺にきたら、もっといろいろなことを学ぼうと思う。みちのくには、こんなにすばらしい所が残っていたのだ。私たちは中尊寺に来てほんとうによかったと思った。（秋田市立勝平小学校六年）＝勝平小学校（佐藤健助校長）は全修協・修学旅行研究協力校＝

経験で奉仕する修学旅行のメッカ本郷へ

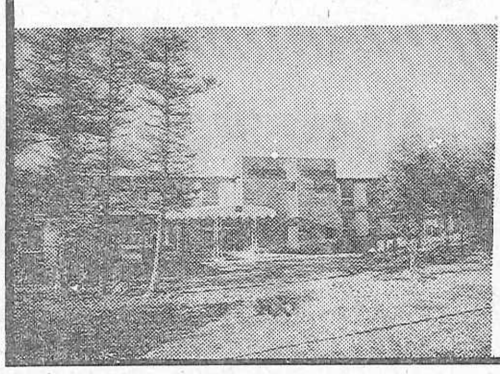
安心して泊れる旅館

東京のお泊りは
文教の地〝本郷〟で
環境・交通は
修学旅行に最適です

近畿日本ツーリスト協定旅館連盟
東京支部本郷地区会員

武蔵野館　文京館　ふたき旅館
平安荘　真成館　追分旅館
朝陽館本家　富士館　長栄旅館
本郷館（本館・別館）　朝明館　春養館
日本学生会館　機山館　（順不同）
旅館かつら　旅館大正園

■ひろがる緑の高原■そそりたつ日本アルプス連峰
■澄みきった空と湖

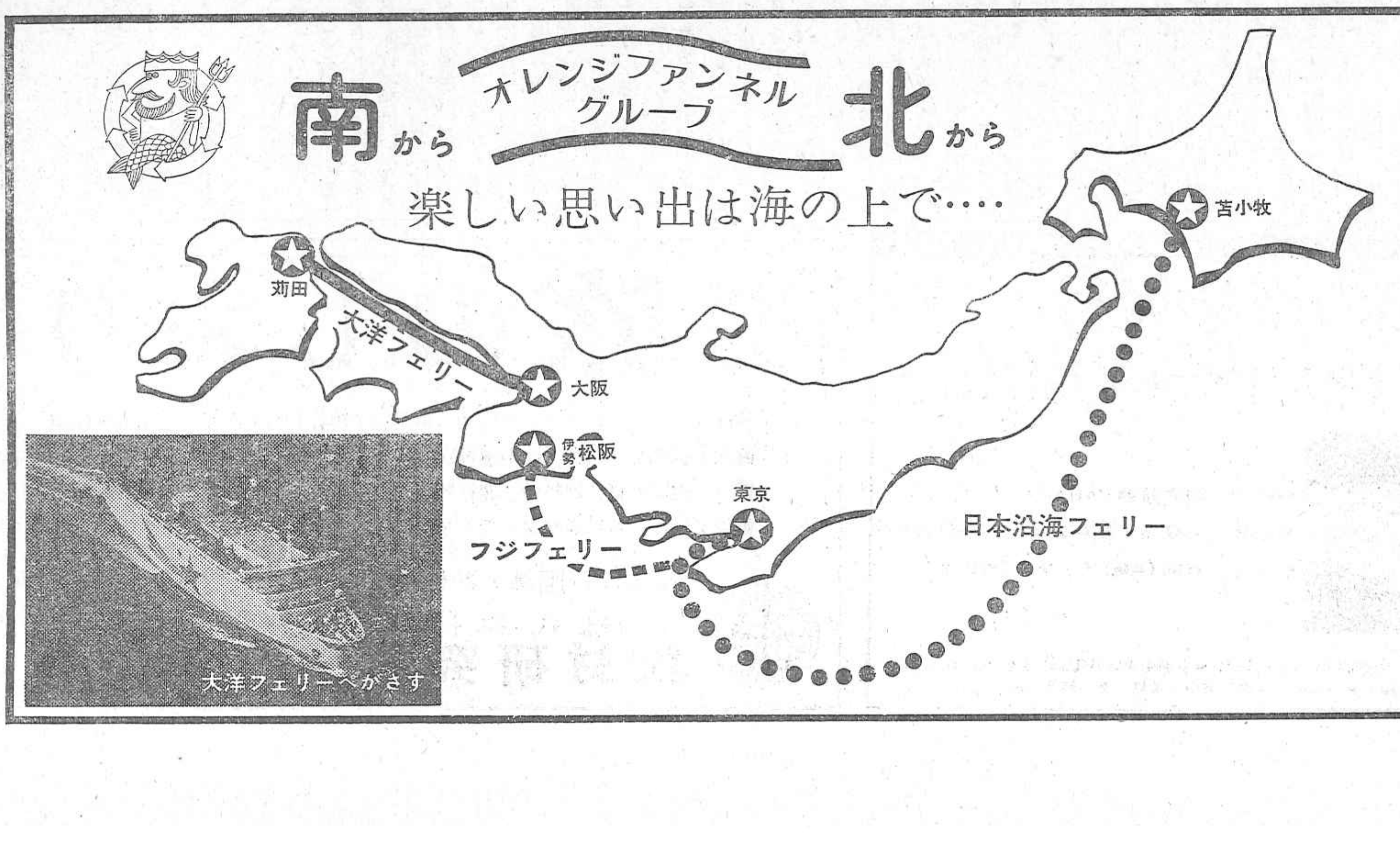


自然のなかのチロル風ホテル

〈修学旅行に最適〉

清風園
女神湖ホテル
長野県北佐久郡立科町芦田
TEL 026755－6006 〒384-23

案内所
■東京03－844－1710・1801 ■中部0587－66－2121 ■名古屋052－962－0585
■大阪06－304－1024



●大阪南港↔北九州（苅田）
〈毎日出港〉
大洋フェリー
大阪市西区新町南通1－7（住生四ツ橋ビル）
〒550　TEL06（532）3651
予約センター　苅田093（46）3135
東京03（562）1571　大阪06（531）5511

●伊勢松阪↔東京〈毎日出港〉
フジフェリー
東京都港区新橋1－10－7（大和銀行新橋ビル）
〒105　TEL03（572）7111
予約センター　東京03（563）0578
松阪05982（6）3711　大阪06（531）8291

●東京↔苫小牧〈毎日出港〉
日本沿海フェリー
東京都港区新橋1－10－7（大和銀行新橋ビル）
〒105　TEL03（573）1911
予約センター　東京03（563）4015
札幌011（261）6321　横浜045（681）7744

又は最寄の旅行代理店へ